

『同和問題に関する直接的指導のタイプ』
上三川小学校第6学年社会科学学習指導案

1 小单元名 「徳川の世」は、どんな世の中だったの

2 小单元の目標

- (1) 江戸時代の世の中のしくみや人々の生活について関心を深めようとする態度を養う。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 町人文化の繁栄と、新しい学問に関わった人物の功績について考えることができる。
(社会的な思考・判断)
- (3) 幕藩体制の確立や身分による支配、キリスト教と貿易の取り締まり、町人文化と新しい学問について、年表等の基礎的資料を活用して調べ、まとめることができる。
(観察・資料活用 of 技能・表現)
- (4) 幕藩体制と身分制度、鎖国政策により武士による政治が安定したことと、この時代に栄えた町人文化、新しい学問について理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 单元観

本小单元は、学習指導要領（社会）の第6学年の目標（1）（3）及び内容（1）のオ・カに基づいて設定したものである。

《目標》

- (1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。
- (3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

《内容》

- (1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。
- オ キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること。
- カ 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことがわかること。

本小单元では、江戸幕府の成立から幕藩体制、身分制度の確立、鎖国政策といった社会のしくみ、文化や学問について学習する。民衆が力をつけ、町人文化が広がったことや、蘭学や国学のような新しい学問が誕生したことが人々の幕府政治への批判の目を育て、新しい時代を生み出す力につながっていったことに気付かせたい。

さらに、差別されていた人々が、町人文化や医学の発展に貢献していたことを学ぶことで、差別の不当性を見抜く力と、差別を許さない強い心を育てたい。

4 指導計画（総時数 7 時間 本時 6 / 7）

時	主な学習活動	関	思	資	知
1	・ 各種の資料を調べ、江戸幕府が目指した世の中について関心をもつ。	◎		○	
2	・ 将軍と大名の関係について調べ、江戸幕府のしくみ（幕藩体制）について理解する。			○	◎
3	・ 人々の生活や職業などについて調べ、なぜ幕府が身分制度を確立したのかについて考える。		◎	○	
4	・ 鎖国と禁教について調べ、幕府の外交政策を理解する。			○	◎
5	・ 都市の様子と町人文化について調べる。 ・ 新しい学問について調べる。	○		◎	
6 本時	・ 「解体新書」ができるまでを調べ、医学の発展に貢献した人々について理解する。		○		◎
7	・ 江戸時代の世の中の様子についてまとめる。	○		◎	

5 人権教育との関連

江戸時代は、中世以降人々の中にあった賤視観を基盤に、身分制度が政治的、制度的に確立し、固定化されていった時代である。その中で、人体解剖を行った「虎松」の祖父のように、差別されていた人々が社会や文化を支えてたくましく生きていたことや、身分制度にとらわれずに真実を追究しようとする人々がいたことを理解させたい。単元全体の学習を通して、身分制度は施政者である武士にとって都合のよいシステムであり、差別に正当性はないことに気付かせたい。このことは、本校人権教育の基本目標である「互いによさを認め合い、ともに助け合って生きる子どもの育成」につながるものであり、これは同目標の育てたい能力・態度の知性「身の回りの偏見や差別の要因、背景について正しく理解することができる。」につながるものである。

6 本時の指導

- (1) 小単元名 「徳川の世」はどんな世の中だったの
 題目 「解体新書」ができるまで

(2) ねらい

「解体新書」ができるまでについて調べ、差別されていた人々が医学の発展に貢献していたことと、杉田玄白が身分制度にとらわれずに真実を追究したことについて理解する。

(社会的事象についての知識・理解)

(3) 人権教育の視点

日本の近代医学発展の契機となった「解体新書」の完成には、労働を通して優れた解剖技術と知識を培ってきた差別されていた人々による人体解剖が不可欠だったことを理解させたい。また、杉田玄白が、身分制度にとらわれずに真実を追究したことに気付かせることで、差別の不当性や不合理性について考えさせたい。

このことは、本校人権教育目標高学年の知性②「人に対して偏見を持つことや差別することの不合理さや不当性がわかる。」③「互いによいところを認め合い、支え合うことの大切さが分かる。」につながるものである。

(4) 展開

○児童指導上の留意点 ○人権教育上の配慮

具体目標	学習活動	教師の支援・評価 (◇)	資料
・前時の復習をする。 ・本時の学習課題をつかむことができる。 ・「解体新書」の役割について考えることができる。 ・資料から、ワークシートの課題を解決することができる ・さらに考えを深めることができる	1 新しい学問について調べたことを発表する。 2 本時の課題を知る。	・蘭学や国学等の確認をし、医学がこの時代に大きく発展したことに触れ、課題につなげる。	人物掛け図
	どのようにして「解体新書」は完成したのだろうか。		
	3 「解体新書」が果たした役割について考える。 ・今までののはおかしい。 ・こんなので病気を治せたのかな？	・漢方の解剖図と解体新書の解剖図を比較して、それまでの医学が間違っていたことに気付かせる。 ・解体新書によって正確な知識が広がったことを確認する。	解剖図
	4 「蘭学事始」前半部を読み、解剖の様子について調べ、考える。 (1) 誰が解剖をしたのだろうか。 ・差別される身分の老人 (2) 医者じゃないのに、どうして解剖ができたのだろうか。 ・やったことがある。 ・仕事だから。 (3) どうして杉田玄白自身が解剖しなかったのだろうか。 ・こわかったから。 ・気持ち悪いから。	・個人で調べた後、グループで話し合い、まとめさせる。 ○机間指導により、話し合いがうまくいかないグループを支援する。 ・資料は児童が読解できるよう、平易なものを用いる。 ・腑分けの様子を描いた想像図より、誰が何をしているのか視覚的にも確認できるようにする。	ワークシート 想像図
	5 グループごとに発表し、設問ごとにまとめる。	◎仕事として牛馬の解体を行っており、優れた技術と知識を持っていたことをおさえる。 ◎「ケガレ」意識により、死体に触れられなかったことを理解させる。	
◇医学の発展に貢献した人々について理解する。 (社会的事象についての知識・理解)【ワークシート】 A 優れた技術を持つ差別されていた人々と、身分制度にとらわれずに真実を追究しようとした杉田玄白らによって「解体新書」が完成したことを理解する。 B 差別されていた人々と、杉田玄白らにより「解体新書」が完成したことを理解する。			

〈支援が必要な児童への手だて〉 解剖を誰が行ったかを確認し、差別されていた人々の果たした役割を理解させる。			
・学習をふり返ることができる。	6 「蘭学事始」後半部を読み、差別されていた人々が医学の進歩に大きな役割を果たしたことをふり返る。	◎差別や間違った考え方が医学の発展の妨げになっていたことに気づかせる。 ・物事を科学的、合理的に考える態度が広がり、幕府政治への批判へとつながっていったことをおさえ、次単元へとつながるようにする。	

(5) 考察

- ・新しい教材開発ができた。（「解体新書」をはじめて直接的指導として取り上げた）
 - ・視覚的資料を多様（漢方内臓図、解体新書内臓図、人体解剖模型、腑分け想像図、牛の内臓図等）することで、わかりやすかった。
 - ・本時の学習につながる、ケガレの概念等が計画的に指導されていた。
 - ・児童の固定観念（解剖は医者の仕事、医者にはできない等）を覆すことで、「どうしてだろう？」という知的好奇心を高め、意欲的に課題に取り組むことができた。
 - ・「解体新書」の完成には、杉田玄白らの医者だけでなく、差別されていた人々が関わっていたことを理解することができた。
 - ・差別されていた人々が労働を通して優れた技術や知識を持っていたことと、医学の発展に大きな役割を果たしたことを理解し、差別の不当性を感じることができた。
 - ・杉田玄白のような、身分制度にとらわれずに真実を追究した人物を知ること、差別を乗り越えることの意味と大切さを感じることができた。
-
- ・虎松のおじいさんについて、もう少し掘り下げるとよかった。（親から子へと、しっかりと技術を継承しながらたくましく生きている。解剖場面の様子等。）
 - ・虎松のおじいさんが優れた技術を持っていながらどうして差別されていたのか、児童とのやりとりの中でのおさえが足りなかった。
 - ・杉田玄白の立場で、どう老人を見ていたのかを考えさせるとよかった。（解剖想像図にふきだしをつけ台詞を入れさせるなどの工夫。）
 - ・資料の読み取りというよりも、資料から想像、推測する学習になっていたため、資料からの読み取りを求める発問にするべきだった。

* 本単元を扱っての直接的指導は町内初であるため、本指導を基に改良、実践を重ねていくことで、より適した教材となっていく可能性がある。

どのようにして「^{かいたいしんしよ}解体新書」は完成したのだろう？

名前 _____



上の絵で、杉田玄白はどこにいるでしょうか？○をつけましょう。

らん がくことはじめ

「蘭学事始」 の杉田玄白の日記①

その日、なかまといっしょに^{じんたいかいぼう}人体解剖をする場所へ出かけた。
差別されている身分の「^{とらまつ}虎松」という人が解剖の優れた技術を持っ
ていると聞いていたので、前から約束していた。
ところが、この日「虎松」が急に病気になったということで、その
おじいさんである90歳の老人が代わりにやって来た。健康そうな老
人だった。
その老人は、メスをふるいながら、^{しんぞう}心臓・^{かんぞう}肝臓・^{はい}肺・^い胃・・・など
と説明した。私たちが持って来たオランダの解剖図と照らし合わせて
みたところ、1つも説明とちがうところはなかった。

(1) ^{かいぼう}解剖をしたのはだれでしょう？

(2) 医者じゃないのにどうして解剖ができたのでしょうか？

(3) どうして^{すぎたげんばく}杉田玄白は自分で^{かいぼう}解剖をしなかったのでしょうか？